

令和元年度新城市中学生議会

令和元年8月25日（日）午後1時30分～
新城市議会 議場

開 会 午後1時30分

○曾田こころ委員 私は、本日、進行役を務めます第5期若者議会の曾田こころです。

本日は新城市議会の皆様におかれましては、議場の使用を許可していただき、ありがとうございます。

7年目となる令和最初の中学生議会は、今までと異なる点が2点あります。

まず一つ目は、中学生の皆さんに新城市をよりよくするためには何ができるかを考えてもらうこと。

二つ目は、中学生の皆さんのサポート役で若者議会が携わったことです。市内の中学生として、事前に今の新城市の状況や皆さんが思っていることを話し合い、この新城市がもっと魅力あふれる市となるためには、自分たちは何ができるかを考えました。真剣に考えたアイデアばかりですので、よろしく願いいたします。

では、ただいまから、令和元年度新城市中学生議会を開会します。

本日の流れとしては、学校ごとに質問席に移動してアイデアを発表していただきます。

では、心の準備は大丈夫でしょうか。皆さん緊張してると思いますが、頑張ってください。

では、最初の中学校は、新城中学校です。新城中学校の皆さんは、質問席に移動してください。

(新城中学校議員 質問席に移動)

○曾田こころ委員 最初の発表者は、前川来輝さん、荻野桂輔さん、山尾彩人さんです。よろしく願いいたします

○前川来輝議員 新城中学校の前川来輝です。

今から私たちが考えたアイデア、「チャリンコツアーもりこぎするか、立ちこぎするか」について発表します。

このアイデアが生まれた経緯は、僕らが感じている新城市のいけてるところ、チャリンコがあればどこでも行けると、イケてないと

ころ、遊ぶところが少ないというアイデアを組み合わせると何かできないかという話し合いをしてから生まれました。

○荻野桂輔議員 荻野桂輔です。

僕らが考えたアイデアは、チャリンコに乗りながら新城市の自然や歴史を楽しめるツアーです。

僕らがお勧めする市内の隠れたスポットを紹介するマップを作成します。そのお勧めスポットには、キーワードが設置してあり、全部を回ると一つの言葉になるように仕掛けを考えています。キーワードをスタンプラリー形式にして、一カ所ずつ写真を貼ってもらいます。全てのキーワード写真をコンプリートした人には、新城市の特産品やのんすけグッズなどの景品を渡すことを検討しています。また、来てくれた人にも新たにお勧めのスポットを見つけてもらい、発信してもらえるといいなと考えています。

○山尾彩人議員 山尾彩人です。

これを実現するために、私たちは何をするかというと、まずはお勧めスポットに掲載したツアーマップを作成します。そのあと、お勧めスポットにキーワードの設置や農家さんなどに景品の協力をお願いに行こうと考えています。参加する人は、チャリンコを持参してもらおう予定です。

このアイデアを実現することで新城市へのメリットは、参加者には市内を回ってもらえるので、新城市のPRになる。チャリンコを使うことで、僕らと同じ世代も楽しめる遊びがつかれる。楽しみながらチャリンコを走らせることによって、運動不足の解消になると考えています。

以上で、僕たちの発表を終わります。ありがとうございます。

○曾田こころ委員 前川さん、荻野さん、山尾さんありがとうございます。

次の発表者は、長坂優洋さん、箆島章吾さん、藤牧海斗さんです。よろしく願いいた

します。

○長坂優洋議員 新城中学校の長坂優洋です。

今から僕たちが考えたアイデア「設楽原の夜」について発表をします。

このアイデアが生まれた経緯は、僕たちが感じている新城のイケていないところ、遊ぶところが少ない、観光地が余りないという意見を組み合わせて何かできないかという話し合いから生まれました。

○箆島章吾議員 箆島章吾です。

僕らが考えたアイデアは、新城のたくさんある自然を生かしたイベントです。設楽原という歴史的な場所を学びながら、夕方にはキャンプをしながら新城市の特産品を使った料理を楽しみ、最後は夏の暑い夜に首洗い池という名称を生かして肝試しをして涼しくなってもらおうというイベントです。

○藤牧海斗議員 藤牧海斗です。

これを実現するために、私たちが何をするかというと、新城の歴史、特に長篠、設楽原の戦いに詳しい方にガイドをお願いし、新城の歴史、バスの手配などは大人に協力してもらおうと思います。僕たちは、夏の夜の肝試しの雰囲気をつくるために、全力で頑張ろうと思います。参加する方にも雰囲気づくりを協力してもらい、テントをホラーな感じにデコレーションしてもらおうと考えています。キャンプをする場所は、もう少し考えてみようと思っています。

このアイデアを実現することで、新城市へのメリットは歴史好きな人、アウトドアが好きな人、ホラーが好きな人などがたくさん集まります。そこで、同じ趣味を持つ人へ口コミが広がり、マニアの中でも有名になり、有名になるとテレビに取り上げられてさらに有名になる。最終的には新城市の知名度アップにつながると思います。

以上で、僕たちの発表を終わります。ありがとうございました。

○曾田こころ委員 長坂さん、箆島さん、藤

牧さん、ありがとうございました。

新城中学校の発表が終わりました。市長より御意見をいただきたいと思います。お願いいたします。

○穂積亮次市長 新城中学校の皆さん、大変ありがとうございました。中学生らしい発想に富んだ提案だったとお聞きしました。

まずは、チャンリコツアーですけれども、最近の観光の特徴としては、単にいゆる有名などところに行って、見て、ご飯を食べて終わるというのではなくて、いろんな体験を、事柄を体験する、そんなことが大きな傾向になっていますし、外国人の訪問客もそういうことに特に大きな興味を持っています。そういう点でいいますと、チャリンコツアーとして出されたアイデアというのは、そうした新城を訪れてくれた皆さん、あるいは新城に興味を持ってくださった皆さんに自転車というツールを通じて、自転車の目線から見た新城のいいところ、あるいはスポットを紹介し合う、そしてそれを通じて広げるということで大変おもしろいものだと思います。

これまでも、若者議会からいくつか提案があって、湯谷温泉での電動レンタサイクルを置いたらどうかという提案が採用されたことがありました。それから、地域おこし協力隊といって、都市部からこの新城に移ってきて、そして、新城のいいところをいろんな意味で発掘をしていこうという若者たちの活動がありますけれども、その中からサイクリングマップが作成されました。ライド新城という名前で簡単なフルカラーのリーフレットですけれども、いろんなコースが紹介をされていてとても有効なものだと思いますし、また、今年地域おこし協力隊で来てくれた蜂須賀という方は、マウンテンバイクの競技の優勝者であります。その方が自転車でのまちおこしを真剣に考えてくれていますので、そうした皆さんともぶつかり合っているいろいろな意見交換をしていったら、よりよいものになるの

ではないかと思えます。

ちなみに、2026年まだだいぶ先のようにありますけれども、2026年、あと7年後ですね。愛知県でアジア大会というのが開かれます。来年はオリンピックがありますけれども、スポーツの大会、アジア大会が開かれ、その折には新城・奥三河が自転車競技の会場になるということが、ほぼ確実になっています。それに向かっていろいろな準備もしていきますけれども、新城からこのアジア大会の自転車競技に出場するような選手が出てくれるとさらにうれしいかというふうに思っています。

それから、次の設楽原の夜というアウトドア、歴史好き、ホラー好きをターゲットにしたアイデアでありました。ちょうど設楽原の周辺では、今歴史ガイドのボランティアガイドの皆さんに本当によく頑張ってくださいています。設楽原の歴史資料館には、毎日のように大型の観光バスが来ておりますけれども、そこにボランティアガイドの皆さんが、地域の皆さんが本当に無償でガイドマップをつくらしたり、見どころを紹介をしたりしています。そうした皆さんのおかげで設楽原歴史資料館、あるいは長篠城址史跡保存館も大きなにぎわいを見せています。

一方で、鳳来の長篠の歴史城址の博物館では、鳳来中部小学校の皆さんが歴史ガイドを買って出ていろんな勉強をしながら、観光客の皆さんにガイドをしています。ぜひ、皆さんも大人たちのガイドをしてもらうだけではなくて、自分たちのガイドができるぐらいに、地域の事情によく知って、そして人に紹介できるようにしてくれたらこのアイデアもさらに大きなところなるのではないかと思います。

それから、鳳来の奥のほうでは、親子キャンプを小学校の跡地で行ってる例もあります。そういう意味では設楽原の歴史資料館の周辺、首洗い池を含めて、いろんな歴史のことを通

じてホラーや、あるいはアウトドアへの広がりを見せてくれるものというふうに思います。

皆さんが新城のイケてないところ、観光地や遊ぶところが少ないところを逆に自然や歴史やそうしたものをより楽しめるために、さまざまな味つけをしてもらえるようなアイデアをしてくれたことに、心から感謝をしてコメントにしたいと思います。

ありがとうございました。

○曾田こころ委員 ありがとうございました。

新城中学校の皆さんは、自席にお戻りください。

2番目の中学校は、東郷中学校です。東郷中学校の皆さんは、質問席へ移動してください。

(東郷中学校議員 質問席に移動)

○曾田こころ委員 最初の発表者は、山下優輝さん、原築さん、小島琉冬さんです。よろしくお願いたします

○山下優輝議員 東郷中学校の山下優輝です。

今から私たちが考えたアイデア、「新城と言えど〇〇だ」について発表します。

このアイデアが生まれた経緯としては、僕らが新城のイケてないところは、人が来ない、人が集まらないところだと感じ、それを改善するためにこのアイデアが生まれました。

そこで、僕たちは新城市には空き家が多いことに注目しました。具体的にどのようなアイデアかというと、地域にある空き家を利用して宿泊できるような施設にし、そこには新城の特産物を味わえるように野菜や五平餅、新城茶などを完備しておきます。特産物を使った料理をつくれるようにあらかじめ郷土料理などのレシピも用意して、誰でも楽しめるようにします。

○原築議員 原築です。

これを実現するために、私たちが何をするかというと、まず空き家の掃除をして空き家をきれいにします。さらに、調理するための野菜などを僕たちが育てて食材の補充をし

す。また、空き家利用のためのPR用ポスターを作成します。地域の大人の方には、空き家の管理などをお願いできたらと考えております。

○小島琉冬議員 小島琉冬です。

このアイデアを実現することで、新城市へのメリットは、地元の食材を提供するので地産地消が進みます。次に、宿泊施設として活用するので、空き家の放置が減ります。さらには、新しく宿泊施設をつくるよりお金がかからないといったメリットがあることです。空き家を活用して新城に来るきっかけをつくることができ、新城に住んでくれる人が増え人口増加につながると僕たちは考えました。

以上で、僕たちの発表を終わります。ありがとうございました。

○曾田こころ委員 山下さん、原さん、小島さん、ありがとうございました。

次の発表者は、山本奈実さん、川村莉央さん、櫻本怜菜さん、狭石華澄さんです。よろしくをお願いします。

○山本奈実議員 東郷中学校の山本奈実です。

今から私たちが考えたアイデア、「新城花いっぱいプロジェクト」について発表します。

現在、東郷中学校では、「花の応援団」という花を増やす活動をしています。生徒たちがボランティア活動して学校にある馬防柵前の柵のところに咲いていた芝桜を鉢に植えかえて草取りをし、坂のところにその芝桜でT O G Oという文字をつくり、東郷中の伝統としていきたいと始めた活動です。この活動を東郷中だけではなく、地域全体に広めていきたいと考えた末に、このアイデアが生まれました。

○川村莉央議員 川村莉央です。

まず、この活動を東郷地区で広めていきたいと考えています。活動を多くの方に知ってもらうために、私たちがチラシやポスターをつくり、つくったチラシを回覧板を利用して地域の方へ周知し、一緒に活動してくだ

さるボランティアさんを集めます。そして、お花を準備するために、私たちが地域で募金活動を行い、集まったお金で苗や肥料を購入します。購入した苗をボランティアさんたちと一緒にいろんなところへ植えます。いずれは、新城全体にこの活動が広まることを目標にしています。

○櫻本怜菜議員 櫻本怜菜です。

これを実現するために、私たちが何をするかというと、周知用のポスターやチラシの作成、苗などの購入のための地区への募金活動、季節に合った苗の選定、苗の水やりを行います。また、ボランティアにも花の水やりや管理をお願いしようと考えています。

○狭石華澄議員 狭石華澄です。

このアイデアを実現することで、新城市へのメリットは、地域全体で行うことで地域の団結力が深まります。少しずつでも花がふえればごみを捨てる人が減り、町がきれいになります。花がきれいに植えてあれば、観光名所となり新城にまた来たいと思ってくれる人が増えると考えました。新城市のためにもこの活動をしたいと思っています。

以上で、私たちの発表を終わります。ありがとうございました。

○曾田こころ委員 山本さん、川村さん、櫻本さん、狭石さん、ありがとうございました。

東郷中学校の発表が終わりました。市長より御意見をいただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

○穂積亮次市長 まず、東郷中学校の皆さん、すばらしい発表ありがとうございました。

最初の空き家の利用に関することですが、まず第一に、まず最初に皆さんがこの空き家問題の提案に当たって、空き家の掃除から始めるということを書いてくれました。みずから汗をかいて、地域の問題を解決するという気持ちがあらわれたものとして大変感銘を受けました。さらに、野菜づくりも含めてやってみようということでありました。ちょ

うど今新城市全体で空き家対策というのに取り組んでいます。空き家対策特別法というのが国の法律でできまして、空き家を今後長期間にわたって、どういうふうに管理をしていくか。あるいは逆に、もう危ないような空き家。それが倒れると近隣に被害があったり道をふさいだりする、そういうものについては所有者の皆さんにしっかりと勧告をした上で、なおできない場合には行政がかわりに取り壊しをしたりする、そういうような法律ができたことに伴って、空き家対策が今新城全体で取り組まれています。一体どのぐらいの空き家があるかといいますと、空き家の定義によってもいろいろ違うんですけども、市内で地域の皆さんに協力していただいて、地域の空き家を全部数年前に調べました。そうしたところ、優に1,000件を超える空き家があることがわかりました。そうして今危険が迫っている空き家というのも100件ほどあります。そうした中で、東郷中学校の皆さんが地域の活性化のために、この空き家について着目をしてそれを自分たちの手で加えて何かの新しい場所に切り替えようというのであったというふうに思います。

東郷地区には地域自治区というのがあります。皆さん御存じかどうかわかりませんが、新城市内を10の区域に分けてそれぞれ地域の住民の皆さんが10地域の課題をみずから考え、みずからで予算づけをしていく、そういう制度ですけれども、東郷地区ではちょうど今年度地方での仕事や暮らしを体験をする田舎フリーランス養成講座、フリーランスというのは会社とかに縛られないで自分で自主的に働いて稼ぐ人をいうんですけれども、それを新城の東郷自治区で拠点をつくっていきこうというそんなアイデアでありました。その場所を東郷地区内の空き家を考えているというのが今回の提案でしたので、ぜひ、皆さんのほうからも東郷の地域自治区の地域協議会の皆さんに提案をしたり、話し合っ

皆さんにもできることを一緒になって考えてもらえると、空き家の利活用についての新しいモデルが生まれてくるのではないかと楽しみにして聞かせてもらいました。空き家といっても一口に言っても大変難しい問題がありますけれども、長年にわたって管理するには相当な労力も必要ですし、皆さんが中学生でやろうと思うと代々に引き継いでいかなければならない。そんな課題もあると思いますが、課題に真正面からぶつかって、自分で感じたことを一緒になって考えて解決策を巡ってもらおうと市のためにも大きな貢献になるのではないかと思います。

次に、新城花いっぱいプロジェクトですけれども、これは大変最初のアイデアから実現に向かったのプロセスまで含めて、非常によく考え抜かれた提案だなというふうにお聞きをしました。実現性の強い課題だというふうに思いました。それも、これも東郷中学校で始まった花の応援団の活動を地域全体に広めていきこうという、もう既に出発点が、土台がしっかりしてるころだというふうにも思いましたし、そして、花をいっぱいにしていくという活動は、地域を本当に明るくして観光面でも大きな貢献をしてくれます。新城の中でも菜の花を観光地に人を寄せる場所にしたり、あるいはコスモスの小径とって、迷路をコスモスでつくってもう数年になりますけれども、季節になると大変なにぎわいを見せるような地域の取り組みもあります。そうした意味で、フラワーロードの東郷の地域自治区でも、フラワーロードの整備という計画が今年度できてきています。地域の中で同じような活動をしてる方がたくさん見えますし、過去には新城高校の高校生の皆さんが若者チャレンジ補助金とって、若者の団体がこういう活動をしてみたいというのに対して、市が補助金、それに対する補助をする支援するお金を予算をつけるんですけども、それで新城高校で花いっぱいプロジェクトというのに取り組んだ

経過もありました。皆さんが今までの花の応援団活動を母体にして、チラシを配ったり、みずから募金集めをしたりして、地域全体に広めていこうという意欲は、地域の皆さん必ず受けとめてくれると思います。ぜひ、地域の自治区の皆さんにも先ほどの空き家の利活用の皆さんと同様に地域協議会の皆さんに問題を話し合ってみることを、ぜひ、お勧めしたいと思いますし、それによって生まれてきたことについては市としても応援できることがあれば全力でしていきたいと思っています。

東郷中学校の皆さんに重ねてお礼を申し上げてコメントとします。ありがとうございました。

○曾田こころ委員 ありがとうございます。

東郷中学校の皆さんは、自席にお戻りください。

3番目の中学校は、鳳来中学校です。鳳来中学校の皆さんは、質問席へ移動してください。

(鳳来中学校議員 質問席に移動)

○曾田こころ委員 発表者は、菅沼大輝さん、平井緑空さん、内山紗那さん、林暉登さんです。よろしくお願いします。

○菅沼大輝議員 鳳来中学校の菅沼大輝です。今から僕たちが考えたアイデア、「廃校の活用」について発表します。

このアイデアが生まれた経緯として、僕らは新城市の使われなくなった施設、場所を活用してみんなが盛り上がるイベントをやろうと考え、そのイベントを開催するために廃校が適しているのではないかという話し合いから、このアイデアが生まれました。

○平井緑空議員 平井緑空です。

具体的に僕らが考えた廃校を活用したイベントは、一つ目は体育館での映画の上映会、二つ目は学校給食をつくって食べることができる体験イベント、三つ目は夏に学校使った肝試し、四つ目は冬に教室を使って木工教室、この四つを考えました。

○内山紗那議員 内山紗那です。

このアイデアを実現するために、私たちがどのイベントもチラシをつくって配付し、イベントのPRを行おうと考えています。私たち中学生だけでは開催することはなかなか難しいので、上映会については地域の方に協力を得ながら上映機などのレンタルをして開催。学校給食イベントは給食をつくれる地域の方に協力を得て開催。肝試しは地域の方と協力しながら一緒に仕掛けづくりをして開催。木工教室では地域の方に講師をしてもらい、巻末材を活用して開催をしようと考えています。

○林暉登議員 林暉登です。

このアイデアを実現することによって、新城市へのメリットは、廃校を活用することによって中心部ではなく住んでいる人が少ない地域が注目される、それによって観光客や移住者がふえる可能性があり、新城市の活性化につながると考えています。

以上で、僕たちの発表を終わります。ありがとうございました。

○曾田こころ委員 菅沼さん、平井さん、内山さん、林さん、ありがとうございました。

鳳来中学校の発表が終わりました。市長より御意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○穂積亮次市長 鳳来中学校の皆さん、ありがとうございました。

廃校のあり方、今後の利活用というのは、地域の大きな課題でありました。今もなおそうではありますが、いろいろとアイデアを地域の皆さんに募集したり、あるいは市で検討したりして実際にいろんなことで試したこともたくさんございます。また、成功例も失敗例もたくさんあります。日本全国各地でこの問題に取り組んでいますので、皆さんの思いを、それをスタート組と同じ共有できるものがたくさんあるのではないかと思います。学校というのは、日本にとっても大きな存在です。小中学校が義務教育化されていますが、学校の

義務教育は明治の時代に始まりました。もう150年以上の歴史があるわけですが、以来学校っていうのは地域の中心でもありましたし、そして人を巣立っていく、人を送り出して、そうした場でもありました。学校から子供たちのにぎやかな歓声が聞こえなくなると、地域はとても寂しくなりますし、そこから心の中の火が消えるようなことを感じることも多いわけです。そうした意味で、廃校跡、学校の廃校跡っていうのは、単にほかの例えば民家がなくなって空き家になってしまった、あるいは工場が移転してしまっただけっていうのとはまた違った思いを、地域の皆さんに抱かせるものですが、それを中学校の皆さんが廃校の利用ということから問題を提起してもらったのは、あまりこれまでありませんでしたが、鳳来中の皆さんがそこに着目してくれたということは、とてもうれしく感じました。

映画の上映会については、先ほど言った地域自治区の中の一つの新城の、この中心部の自治区の皆さんが地域自治区の予算を使って、これまで3年目になりますか。映画上映会を行いました。それは主に、昔の映画を楽しんでいただいた高齢者、お年寄りの皆さんですね。少しでも町の中に出てきてもらって、そして、かつての交流を取り戻していくという意味合いでしたけれども、今回皆さんは、廃校跡を利用して上映会をするという新しいアイデアでありました。新城市内では、廃校の利用についてはたくさんの事例があります。例えば、作手地区の菅守小学校というところでは、菅守農家レストランというのをつくって若い地域おこし協力隊で作手に来た方が、女性ですけども、栄養士さんの資格を持ったもんですから、そこで地元の食材を使ったレストランを開業して大変な人気を博している例があります。あるいは、鳳来の門谷小学校の跡では、いろんな方々が子供たちのキャンプに使ったり、美術展をそこで催したり、い

ろんな事例がありますけれども、皆さんの言っていた映画上映、そして木工、給食、そして肝試し、これら一連の一つのパッケージになったようなアイデアになって仕掛けられたら、これまた一つの大きな話題になるのではないかなというふうに思います。

肝試しは、先ほど新城中学校からも提案がありました。皆さんがやるとしたら、どんな風な肝試しになるのでしょうか。見てみたい気がします。ぜひ、皆さんのアイデアが少しでも実現に向けていけるように、地域の皆さん、また学校の先生方ともよく話し合ってもらいたいと思います。

廃校の利活用については、新城市が責任を持って管理をしておりますので、こども園廃校になった、廃園になった旧の保育園も含めて、皆さんのアイデアが生かせるならば我々としても十分に検討していきたいと思いますので、さらにアイデアを練り上げられていただければと思います。

以上でコメントとします。ありがとうございました。

○曾田こころ委員 ありがとうございました。

鳳来中学校の皆さんは、自席にお戻りください。また、次の発表者が八名中学校となります。新城中学校・東郷中学校の皆さんは、後ろの席へ移動し八名中学校の皆さんと席を入れ替わってください。

4番目の中学校は、八名中学校です。八名中学校の皆さんは、質問席へ移動してください。

(八名中学校議員 質問席に移動)

○曾田こころ委員 発表者は、伊藤楓真さん、垣内田愛さん、祖父江千紗さん、中川さちさん、植村あさみさん、梶本朋伽さん、河合由希乃さん、建部結衣さん、今泉愛捺さん、梅田昌菜さん、平田慧さん、伊田青樹さん、岡本涼華さん、山下絵美さん、榊原千春さん、松井美空さんです。よろしくお願ひします。

○岡本涼華議員 八名中学校の岡本涼華です。

今から私たちが考えた、「八名夕涼み会」について発表します。

八名地区は、年々子供の数や商店が減少してきています。今ではお店と言える店がコンビニ1軒となっしまい、買い物に行くにも市街地まで車で出るか、山を越えて三ヶ日まで行く必要があります。八名地区は少し元気がなくなっているのではないかと思いました。

○植村あさみ議員 植村あさみです。

そこで、子供からお年寄りまでが参加し、楽しめる会を開きたいと思い、八名夕涼み会を企画しました。これは、昨年度の中学生議会から引き継いで、八名をもっと盛り上げたいという思いを形にしました。会場は八名マルシェ旧Aコープです。八名地域協議会の加藤久美子さんに相談したところ、私たちの思いに賛同していただき、すぐに動き出すことができました。

○垣内田愛議員 垣内田愛です。

準備計画をし、実際に8月10日土曜日に八名夕涼み会を実施することができました。準備から当日までをスライド形式にしましたのでごらんください。

まず、7月20日土曜日に1回目の集まりがありました。どんな会をするかみんなで考えました。

○今泉愛捺議員 今泉愛捺です。

一番驚いたことは、八名夕涼み会で何をやりたいか、附箋で貼り出すときに絶対に無理だと思案も出すことです。そうすることで、それぞれの意見のよいところを合わせるなどができます。若者議会の八名中学校の先輩が進行してくれたので、スムーズに進みました。

○中川さち議員 中川さちです。

この会では、お客さんを200人集めることを目標にしました。話し合いの結果、かき氷アンド盆ダンス、流し〇〇の二つを行うことにしました。かき氷では、ただのかき氷ではなく、カルピスやコーラを凍らせたかき氷

にしたり、流し〇〇ではそうめんを流すのではなく衛生面を考えてお菓子を流すことにしました。

○梶本朋伽議員 梶本朋伽です。

計画を進めて行くにつれて、氷はいつ、誰がどうやって用意するのか。流し〇〇のときはどうやって調達するのか。当日までに用意するものは何かと具体的な課題が浮かび、それを解決するためにさまざまな工夫が出してきました。

○榊原千春議員 榊原千春です。

材料をそろえたり、宣伝したりするのにお金がかかることがわかりました。そこで、市が行っている新城市若者チャレンジ補助事業と中学生議회를タイアップすることにしました。私たちの企画が市に認められ、5万円の予算をつけていただきました。

○梶本朋伽議員 梶本朋伽です。

役割を分担し、材料を買い出しに行きました。夏休みで少し時間にゆとりがあるので、友達同士で時間を合わせて行くことができました。ほかにもチラシを作成し、回覧板で地域に回して宣伝をするなど、少しでも多くのお客さんに来ていただけるように工夫しました。

○山下絵美議員 山下絵美です。

当日、掲示物やポップづくりなど、みんなで会の準備をし、みんなで盛り上げようと声をかけ合い、八名夕涼み会がスタートしました。八名マルシェでも、ポテトやポップコーンを販売し八名中の先生方もスーパーボールすくいや焼きそばを担当し、縁日のような楽しい会が始まりました。

小さな子からお年寄りの方までたくさんの方々がこの会に参加してくれました。楽しそうに、流し〇〇で箸を使う子供の姿やおいしそうにかき氷を食べてくれるお客さんもいて、この会を企画して本当によかったと思いました。来年もやってねと言ってくれるお客さんもいて本当にうれしくなりました。

○松井美空議員 松井美空です。

会の最後には、フィナーレとして盆ダンスを行いました。新城音頭やパプリカなどさまざまな年齢層が踊れる曲を用意しました。子供からお年寄りの方まで、たくさんの方が楽しく輪になって踊り、会を盛り上げることができました。

○伊田青樹議員 伊田青樹です。

目標の200人を集めることはできませんでしたが、150人近くの地域の方が八名夕涼み会に来てくれました。また、2万7,140円の売り上げを出すことができ、会を盛り上げるだけではなく、材料費などを考え、この会自体が赤字にならないようにどうすればよいのか、学ぶことができました。

○梅田昌栄議員 梅田昌栄です。

その後、片づけをし、会の反省を行いました。もし、来年度やるならどうするか。今回の反省をどう生かすかなど話し合いをしました。何もかも初めてで、それでも自分たち中学生でもこんな行事ができるんだということを改めても知ることにもなり、大変有意義な会になりました。

○祖父江千紗議員 祖父江千紗です。

この八名夕涼み会の成功は、決して私たちだけでできた行事ではありません。八名マルシェの運営者であり、八名地域協議会の加藤さんや瀧川さんをはじめ市役所のまちづくり推進課の方々、若者議会の先輩方などのたくさんの方の協力があったからこそ行ことができました。

○建部結衣議員 建部結衣です。

これから、この八名夕涼み会の反省を生かし、新しいことも企画しようと思います。八名マルシェをテスト勉強のために自習室として開放する。ハロウィンパーティー、クリスマス会、お化け屋敷や花火大会を行う。ほかにも八名マルシェで売るものを、中学生としての目線で商品開発をするなどです。

○平田慧議員 平田慧です。

僕たち中学生が考えたことで、新城市を少

しでも盛り上げることができたらいいなと思います。

以上で、僕たちの発表を終わります。ありがとうございました。

○曾田こころ委員 伊藤さん、垣内田さん、祖父江さん、中川さん、植村さん、梶本さん、河合さん、建部さん、今泉さん、梅田さん、平田さん、伊田さん、岡本さん、山下さん、榊原さん、松井さん、ありがとうございました。

八名中学校の発表が終わりました。市長より御意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

○穂積亮次市長 八名中学校の皆さん、ありがとうございました。

八名マルシェでの夕涼み会、これはアイデアを提案していただいたというよりもアイデアを実現をしたことを報告してもらった、素晴らしいレポートと聞かせてもらいました。

8月10日の夕涼み会の催しは私も事前に知っておりまして、時間があれば行きたいと思っていましたけれども残念ながらありませんでしたが、今のスライドを通じて素晴らしい、楽しい、そして盛り上がった会になったことがよくわかりました。反省点とともに皆さんの思いをしっかりと受けとめたつもりでございます。

この事業は、八名中学校の皆さんが前年の中学生議会の先輩方の提案を引き継ぎながら、自分たちでアイデアを温めるとともに、それを積極的に地域協議会の先輩方に話を持ちかけたり、そして、若者議会の先輩方がそれをサポートする。そして、学校の先生方、市役所の職員が協働しながらみんなの思いを、八名の地域の形にしていこうとして実現をした素晴らしい事業だったと思います。その課程で皆さんが学んだことは、今短い報告の中ではありましたが、はかり知れないものがあったと思います。アイデアを形にするということは、一人ではできないわけですから、

参加するみんなの考え方を、ベクトルを一つに方向を合わせなければならぬ。合わせて一つの企画ができて、実は、それを実現するにはたくさんの裏方の仕事があるということ。お金もいるし、調達をする方法もいる。それぞれの役割分担もある。役割分担も本当に苦勞も多い仕事です。そして、当日多くの人に知ってもらうためには、PR、周知が欠かせない。それをどういう手段で行ったら一番有効なのか。あるいは、会場の設営の準備をいつ誰が、どこから初めていくのか。何かトラブルがあったときにどうするのか。いろんなことを考えながら一つの事業を実現をしたと思います。ただ、机上でああしたらいい、こうしたらいいと言っていたのは次元の違う学びを、皆さんが得たということがよくわかった報告であったと思います。このことが、さらに地域を元気づけていくこと、そして旧Aコープの今現在の八名マルシェの場が地域の活動の大きな拠点となって、あそこが八名のよりどころになるような、心のよりどころになるような、そんなふうに皆さんが盛り立ててほしいと思います。

今回の夕涼み会は、中学生の皆さんが主人公になって、主体になってやったという点で、これまでのいろんな事業とはまた一味違ったものが生まれました。それまでの新中、東郷中、鳳来中の皆さんもそうでしたけれども、中学生の目線から地域を見て、その目線から地域の足りないところ、いいところを光を当て、そして、それをどうしたらより輝かせることができるのかをアイデアを出し合って実現をしていく。何物にもかえがたい地域活動であったというふうに思います。

今後は、ニューキャッスルアライアンスに参加した高校生が国際交流についても検討しているそうですので、そうした面でも、ぜひ、検討されたいかかなと思います。さらに、八名中学校では、新城ラリーへ出場しているいろんなPRをした経験もあります。目を世界に

広く、大きく持って、いろんなチャンスを貪欲に吸収して、自分のものにしてチャレンジ、チャレンジ、チャレンジをし続けてほしいと思います。皆さんの勇気ある行動力に心から敬意を表してコメントにしたいと思います。ありがとうございました。

○曾田こころ委員 ありがとうございました。

八名中学校の皆さんは、自席にお戻りください。

以上で発表が全て終了しました。

それでは、本日御出席していただいた新城市議会丸山議長から御挨拶をいただきます。よろしく申し上げます

○丸山議長 皆さん、こんにちは。

本日は本当にこの日曜日、また夏休み期間中ってということで、中学生議会、方法もがらっと変わって大変興味ある方法で、若者議会の皆さんも協力し合っていて本日を迎えました。非常に私たち議会としても関心が高く、常日ごろ中学生の皆さんがどういうことを考えてお見えになるのか。また、どんな提案をされるのか。そんな思いで毎年毎年この機会を楽しみにしております。きょうも都合つく議員の皆さんは、傍聴者の席のほうについておられますけれども、本日は私と村田副議長と同席をさせていただきました。大変ありがとうございます。また、いつものことではありますが、この議場を本当に利用させていただいて大変うれしく思っております。ちょうどこの下の部屋は、ちょうど今改修しがてら、またこの3階も改修しがてら、今不都合な面を改善しながらやっております。我々もこれで議会が9月になると入っていくわけがありますが、途中でちょっとエアコンも故障したりとか、多々ちょっと不便な面もございますが、これ我々大人の責任の中でしっかりと乗り越えてまいりたいと、このように思っております。

また、本日本日にこの議場をごらんになりましたように、このモニターが設置されまし

て、昨年設置されたわけでありましたが、フルに今こうやって活用させていただいております。またいろんな皆さんが成長するにあたって、いろんな局面、また場面があろうかと思いますが、この議場にまたお越しにいただいた際には、十分な活用をしていただければ幸いです。

昨今、私ちょっと最近のこの政治情勢っていうんですか。今、先ほど市長さんも世界に羽ばたいていただきたい、こういう旨の夢のあるお話もいただいたわけでございますけれども、テレビのチャンネルをひねりますと、世界の若者の中でも、ちょっと一つ例を挙げますと香港。香港って御存じですね。中国の大きな大陸のすぐ南のところに小さい島がありますが、これがイギリスの支配下にあって約150年ほど植民地としてあったわけですね。これが約20年以上前に返還されて、イギリスから中国へ返還されて今一国の二つの制度という形で今進んでおりますが、最近のニュース見ますと、香港の若い世代の人たちがデモンストレーションで町中を埋め尽くしている。こういう場面をニュースで見られた方がいらっしゃると思います。こういう方々、若い人たちは、二十数年前に返還されたころ、そのお父さんやお母さんが独立だとか、それから自由だとか、権限を主張したお父さんやお母さんたちですね。その子供さんたちが今こういうような境遇の中で、町中でみんな埋め尽くして何を訴えているかという、みずからの皆さんの権利、また自由、それから主張を、これを一生懸命叫ばれておられます。その要因はともかく、また要因については中学生の皆様方がまた勉強してくだされば結構ですが、やはりこういう場で、ああいふ場で香港の若者たちが主張をし、自由、権利をしっかりと確保していく、これは世界の流れでもありますし、この日本の中でも、私たち新城市は市長を筆頭に若い皆様方にしっかりと主張していただけるこういう場を、場

づくりを今後もまた与えてくださると、こう思います。我々も、議会も、皆様方の行動やそしてお考えをしっかりと支えて、これからも我々も協力してまいりたいなど、こんなふうに思っております。

今日の本当に皆様方の発表も含めて、主張は見事でございました。これからも我々議会はしっかりと皆様方のお気持ちを受けとめて、また議会のほうにも反映してまいりたいと思います。本当にありがとうございました。

○曾田こころ委員 ありがとうございます。

次に、和田教育長から御挨拶をいただきます。よろしく申し上げます。

○和田教育長 中学生の皆さん、発表本当にありがとうございました。それぞれの中学校において、そこを足場にして我が学区、そして新城市に目を向けて皆さん方の発想力、アイデアでもってしっかりと計画してくださったこと、そして、また活動に向けてやられたこと、本当に心から感謝したいというふうに思います。

令和という時代が始まりました。令和の夏、皆さん方にとっては本当に第一歩、市を考えるとこの部分で記念すべき夏であったのではないかなというふうに思います。暑さ指数が31を越すような、大変厳しい夏でありましたけれども、皆さん方の考えたことというのは、これから必ず皆さん方の命に刻まれていくことではないかというふうに思います。皆さん方の考えの、やっぱり一番いいなこと、自分たちの地域の三宝、新城の自然、新城の人、新城の歴史文化、このことに目を向けて、そこからスタートしているということ。これがすばらしいと思います。

それから、もう一つは、共育の発想でともに過ごし、ともに学び、ともに育つということで、中学生の仲間とともに、若者議会の仲間とともに、あるいは地域、学校の先生、親御さんたちとともに、このアイデア、活動を進めようとしていること。あるいは進めてき

たこと。それが素晴らしいと思います。日本の人口が減少しておりますけれども、今1億2,000万あります。先の大戦の後、日本の人口は7,700万でした。それを思うと、まだ遥かに多い人口であります。この多くの人々の持つエネルギーというのは決して諦めたり、不安になったりする必要はないと思います。共育のように、人を知り、人をつなぎ、皆が元気になる。人を知り、人と人をつなぎ、皆が元気になる、それがまさにまちづくり、地域づくりの原点であるというふうに思います。

それから、いろんなイベントを考えたとき。一生懸命考える、これは素晴らしいことです。でも、そこに人を集めるためには、そこに遊び心が必要だと思います。これを考えていくと、みんながどう喜ぶだろうか。どう楽しめるだろうか。自分もどう楽しく、仲よくやれるだろうか、という遊び心の視点があると、なお大きな楽しい活動が考えられていくのではないかなというふうに思います。

イベントを考えるのに三段階あります。やる前に考える、やりながら考える、やってから考える、この三段階のステップを踏んで、やってから考えたときに、次につなぐアイデア、課題が浮かんできたとき、それはさらに発展していくものになっていきます。ぜひ、中学生の皆さんが今後今日発表したことを土台に、さらにその活動を着実に大きく広げていっていただけたらなと思います。

最後に、そのために必要なこと。それは、自分がやろうとしていることの、その課題を生み出すときに事実がどれだけあるかということでございます。人間には五感があります。五感、わかりますね。目で見ると、耳で聞く、鼻で嗅ぐ、そして口で味わう、そしてさわるね、五感がありますけれども、そういった事実を習得するのは何かと。この五感の中で二つある器官を頭の中に思い浮かべてください。目がそうだね、だから二つの目でしっかりと

事実を見ていくこと。二つの目でしっかりと現実を、事実を聞きとっていくこと。こうしたことで、取材することによって自分の考えがしっかりと固まってきて、そして口から一つの口で発信していくことができるんだよね。そういう意味合いでさまざまな経験、さまざまな読書、そして地域の人との共育のつながりでもって、たくさんの経験取材をして発信していただきたいなというふうに思います。

夏休みもあとわずかです。この経験をもとに、各中学校でまた皆さん方が大いに活躍、活動をしていただけることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

○曾田こころ委員 ありがとうございました。

最後に、穂積市長から御挨拶をいただきます。よろしくお願いします。

○穂積亮次市長 はい、新城中学校、東郷中学校、鳳来中学校、そして八名中学校の皆さん、今日は本当にありがとうございました。夏休みの時間をだいぶ犠牲にしてといたしますか、使って、先輩方あるいは地域の皆さんと一緒に知恵を絞って、今日の議会に臨んでくれたと思います。

この議会は、新城市議会から議場をお借りしてやることができました。これが中学生議会の一つの大きな特徴です。議場というのはなぜこんなに緊張するのかって思うぐらいに、理由なく緊張させられる場でもありますけれども、そうした場を体感してくれたことも大きな学びだったかなと思います。

この新城市の中学生議会は、もともとは一番最初は今から8年前、2011年3月11日に東日本大震災が起きました。8年前ですので、皆さんは小学校に上がったか、上がらないかぐらい、そんな時分ですけれども、少しは記憶に残ってるかもしれませんね。あるいは小学校でも話題になったり、募金をしたりした経験もあるかもしれません。その夏、

震災が終わった夏、日本中で節電の課題、省エネルギーの課題が大きな問題になりました。福島第一原子力発電所が事故に遭いました。それによって電力の供給が大変厳しくなったことから計画停電だとか、省エネ、節電といった日本中で叫ばれました。私ども新城市でも市役所のさまざまなエアコンだとか、明かりだとかの使用について考え直したわけですが、そのときに中学生の6中学校の生徒会の皆さんに呼びかけて、中学生にもそれぞれの学校でできることを節電、省エネについてできることを考えてほしいと、市長のほうからお願いをして六つの中学校の生徒会の代表の皆さんに夏休みでしたけども集まってもらって、その中で中学生の皆さんが考えたアイデアや、あるいはこうしたらいいんではないかという話をしてもらいました。それが一つの大きなきっかけになって、次の年から中学生議会というのが始まりました。議場の場で各中学校の代表者の皆さんが、地域の課題を取り上げたり、あるいは自分たちが考える新城市全体のテーマについて意見を出したり、あるいは私どもの市長をはじめとした市の職員に質問をしたりする、そんな場でありました。そして、そこから若者議会というのも始まってきました。さらに先ほど言いました地域自治区制度というのをも時を前後して始まってきたわけです。こうして、今回は議長さんが今日最初に申し上げたとおり、おっしゃっていただいたとおり、これまでの中学生議会とはちょっとやり方を変えて市役所の執行部に質問をするという形ではなくて、むしろ皆さんの中学生側からの提案、アイデアを発表してもらい、それに対して私たちからコメントをするという場になりました。変わったけれども、それに至る過程では、八名マルシェのように、あるいはほかの地域の皆さんもそうであるように、地域の皆さんといろいろなことを考え合いながら、学校の先生にも協力してもらいながら一つの形にしてく

れました。何よりも、若者議会の皆さん先輩方がこのサポート役に回ってもらいました。こうした流れ、人と人がつながっていくことが中学生議会を一つの起点にしながら、そのつながりがどんどん広がってきています。これが何よりも新城市がこれからの一番の強みとする力であります。市民同士のつながり、市民の中でも地域同士のつながり、あるいは世代の違う人同士のつながり、さらに新城市外の人ともつながっていく、世界に広がっていくつながりでもあります。最近では、新城市内にも外国人の居住者の方が月ごとに増えてきてまして、8月には1,000人を超えました。市内の小中学校で外国の友達がいる学校もたくさんあるかと思います。新城市ではまたニューキャッスルアライアンスといって世界十数カ国の新しい城という名前を持った都市の皆さんとつながりを持っています。ちょうど今日高校生の海外派遣が終わって帰国をするときではないかと思えますけれども、今は一週間ほどイギリスのニューカッスル・アポン・タインというところに高校生の代表を送って交流をしてきました。いろいろなつながりの中で力を発揮をしていけるように、中学生議会もこれからどんどんブラッシュアップをして頑張してほしいなというふうに思っています。

今日いただいた皆さんの提案は、いろいろまだ生煮えなところもあったところもあるでしょうし、ほかの学校の提案を聞きながら自分たちはもっとうとうと直したほうがいいなと思うところもあったかと思いますが、それぞれに込めた志、思いはこれからも持ち続けて地域のことを自分のこととして考えながら、まちづくりを一緒になって担っていただければありがたいと思います。

今日ここにまで至った皆さんの努力、そして協力していただいた全ての皆さんに感謝を申し上げまして、市長としての御挨拶にかえたいと思います。ありがとうございました。

○曾田こころ委員 ありがとうございます。

本日は、令和元年度新城市中学生議会の進行を務めさせていただき、誠にありがとうございました。

私もサポート役として参加させていただき、一人一人が積極的に意見を出し、課題やお互いの意見に真摯に向き合う姿がとても印象的でした。そういった課題を解決しようといった姿や、この意見とこの意見を合わせたらもっといい意見になるんじゃない？といったそういう斬新な意見ですとか、そういう意見は私たち若者議会のメンバーもすごくサポート役ながらとても学ばさせていただくことがとても多くありました。すごく感謝いたします。ありがとうございます。

この議会で提案したアイデアをぜひ実行していただければ、これからの新城市がもっといいものになると思います。そしてこれからも新城市の未来のために、ワクワクするようなアイデアを考えていきましょう。

これをもちまして、令和元年度新城市中学生議会を閉会します。本日はありがとうございました。

○三浦彰企画部長 では、以上をもちまして中学生議会を終了いたします。大変お疲れさまでございました。